

タテ科 ギンギシ属

コギシギシ (小羊蹄)

Rumex dentatus L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech.f.

の位置づけ

千葉県

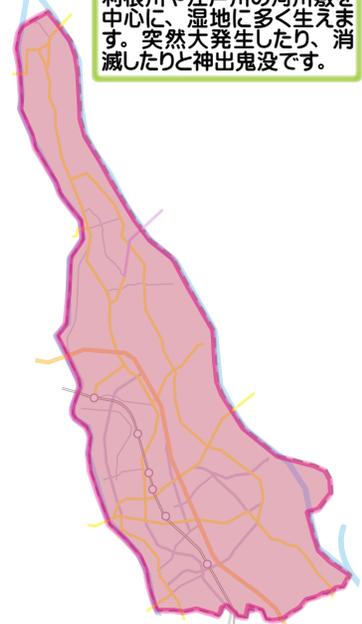


環境省



市内の分布状況

利根川や江戸川の河川敷を中心に、湿地に多く生えます。突然大発生したり、消滅したりと神出鬼没です。



自生環境

河川敷、水辺 など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



今のところ水辺に普通ですが、埋め立てや過度の除草などが原因で、乾燥化が進行している場所も少なくありません。乾燥化は水辺の生態系をダメにする原因になります。

特徴

- ☆ 大きな河川の周辺は、大雨のたびにあふれた川の水によって表土が激しくかき混ぜられます。このような場所を氾濫原（はんらんげん）と言い、コギシギシは氾濫原に適応した種類です。人間活動に伴い氾濫原が荒れてしまっているため絶滅危惧種になっていますが、市内では今のところ比較的普通に見られます。
- ☆ 30～50cm ほどの高さになる多年草とされますが、土のかく乱の状況によって大きく左右されます。ときに 10cm にも満たない小さな姿で結実していることもあります。また結実後に枯れる1年草としての生活を送っている株も少なくないと思われます。
- ☆ 花や果実は葉のわきに輪になってつき、花の輪と花の輪の間にはすき間があります。また果実期にタネを覆う3枚の花被片は、3枚とも大きな粒体があり、縁は鋭い刺状に切れ込みます。花被片は成熟するとわら色になり、赤みは帯びません。

コギシギシ系の雑種

ギシギシの雑種のうち、コギシギシを片親とするものとしてはナンキンギシギシ (× ギシギシ)、コエゾノギシギシ (× エゾノギシギシ)、アレチコギシギシ (× アレチギシギシ) が知られています。市内ではナンキンギシギシとアレチコギシギシが見出されています。また、ナガバギシギシ × コギシギシ (現在日本名なし：筆者はナガバコギシギシの和名を提唱) と推定されるものも見つかっています。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

